



**GUNBOH**

# 群 萌

第169号 2008年1月11日

発行所 全国化学労働組合総連合  
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-10  
本郷TKビル 4F  
TEL 03 (3868) 9663  
FAX 03 (3868) 9664  
発行責任者 秋田 孝弘  
編集者 総合企画委員会 情宣グループ  
gs03@kagaku-s.jtuc-rengo.jp

## 更なる産業・業種対策活動の充実へ向けて！

—雇用と生活の安定を確保する環境整備を—

化学総連会長 秋田 孝弘

化学総連に集う単組・組合員の皆様明けましておめでとうございます。

日頃から化学総連の活動に対し、ご理解並びにご支援を頂き大変有難うございます。

昨年は、政局の混迷が続き7月の参議院選挙に於ける与野党の逆転、安倍内閣の突然の辞任劇、代わって福田政権の誕生、更には民主党との大連立構想で二転三転するなど目まぐるしい展開を見せ、話題のテロ対策特措法を巡って厳しい政局となりました。

さてこうした環境下での経済動向は、07年度の実質GDP見込みは2.6%となつてはいますが、可処分所得の激減により景気拡大の恩恵は全くと言って良いほど感じていないのが実態ではないでしょうか。まさに世情は、非正規社員と見られる低所得層

の拡大、長時間労働の増大など格差拡大・二極化が進展するという異常な状態を示しています。私たちが加盟する連合では、この様な状況の打破を目指し、賃金改善を始めとしてワークライフバランスの実現・次世代育成支援、労働分配率の改善等の取り組みに総力をあげていくという春季生活闘争の考えを打ち出しています。化学総連は、これらの状況を踏まえ、加盟単組の自主的・主体的な取り組みを優先していく基本スタンスを継続していきます。

私たちは、昨年定期大会で確認した活動方針について、活動の5本柱すなわち、①産業・業種対策活動、②総合的労働条件改善への取り組み、③調査情報活動と教育研修活動の充実、④企業内グループ労組との連携強化、⑤地連活動への対応及び外部組織との連携を中心に着実に成果を出せるよう取り組みます。特に、産業・業種対策活動については、今年度も最重要課題として捉え、より一層の活動強化を図るべく、従来のJEC連合とのブリッジ協定を実態に合わせ見直し、シンクタンク機能を持つJEC総研の運営に参加できる体制を整え、より産業政策における連携を強めていく協定としました。この事は、化学産業全体の持続的発展に繋げる取り組みをベースに、働く組合員の雇用と生活の安定を確保する環境を整えていくことが、我々産業別組合に集う意義であり、課せられた使命であると考えます。

今年度は、化学総連が1978年に発足して30周年を迎えます。現在実行委員会を発足させ、具体的にどのような記念行事ができるか検討をさせて頂いていますが、外部へのPRや加盟単組組合員への活動の見える化、社会貢献(CSR)・次世代育成支援などの観点に照らし、相応しい内容を検討・実施していきます。

『絆で結ぶ人と化学 次代を創る化学総連』この30周年記念スローガンを元に私たちは、基本姿勢はしっかりと継承しつつ、新たな時代に合わせた工夫を凝らし、気持ちも新たに積極的に諸活動に取り組んでいきます。加盟組織のご理解とご協力をお願いすると共に、組合員皆様並びにご家族のご多幸と健康を祈念し、新年の挨拶と致します。



# ICEM 世界大会に参加して

2007.11.21-23

クイーン・シリキット・ナショナル・コンベンション・センター (タイ バンコク)

ICEM世界大会は4年に一度開催されておりますが、第4回大会となった今回はタイの首都バンコクで開催され、世界各国165の組織から840名の代議員が集まり3日間に及ぶ会議を開催しました。

日本からは化学総連をはじめICEM-JAF加盟の8産別に加えて電気化学労組からも出席しました。

議題内容は緊急決議を含めて31項目ありました。主な内容としては、規約・加盟費に関する件、ICEM本部所在地移転、契約・派遣労働の件、HIV/AIDSの件、GUF(国際産業別労働組合組織)諸組織間の協力関係の件などです。

各国それぞれ置かれている立場は異なりますが、化学産業が直面している課題は、欧州を中心に共通事項が多いことを改めて確認し、労働組合の役割も今後益々重要になっていく事を認識した3日間となりました。

なお、日本を代表して化学総連の秋田会長が「化学物質管理と労働組合の立場」『グローバル化と基本的な政策課題』についての発言を行いました。

## <秋田会長発言要旨>

労働組合の産業政策活動意義は、安定した良質な雇用の確保を目的とした考えの下で、

### ①「化学物質管理と労働組合の立場」

様々な化学物質管理規制が行なわれる中において、労働組合の立場からは直接従事し取り扱う組合員と地域社会の安全と健康を第一義に考えると同時に、産業活動を失速させないことも必要である。そのためには、法的管理とRC活動などの自主的な管理のバランスが重要である。

### ②「グローバル化と基本的な政策課題」

温暖化ガスの排出抑制は地球規模での行動目標となって

いる中で、化学労組としても、産業特性を活かした貢献を模索している。さらにIT技術の進化を通して、産業や民政での省エネに寄与できる材料・素材の開発・生産を促進する事も重要な政策の目標であり、これらの潜在力を秘めた化学産業の基盤強化は安定した良質な雇用の条件でもある。しかしながら、近年ではヘッジファンド等の活動により、雇用や労働条件を利益捻出のために安易に犠牲にするというような行動も見受けられる。これについては、国境を越えた労働者や国際機関によって有効な歯止めを設ける必要がある。

このことから、化学産業グローバルネットワーク会議を設置することで国際対話活動を行ない、労働組合の役割認識などを議論する事が必要と感じる。

「思想・理念」と「現場の実態」との調和の中で、化学労働者の社会的地位の向上と化学産業の国際的ポジションが更に向上することを願っている。



日本を代表して発言を行う秋田会長

2007

## 年末社会福祉カンパ・連合愛のカンパ ポスターコンクール結果発表

今回も力作34点の応募作品が寄せられました。ありがとうございました。厳正なる審査の結果、最優秀賞には、積水化学労組栗東工場支部の光永竜介さんの作品に決定いたしました。おめでとうございます。



最優秀賞 光永 竜介さん (積水化学労組)

優秀賞 小尻 悟史さん (住友化学労組)

優秀賞 久間 秀子さん (東燃化学労組)

優秀賞 松本 信彦さん (宇部興産労組)